



【京都 センチメンタルジャーニー】

ソプラノ 近藤 壽美江

義母が健在中は福島県いわき市へ帰郷し、具沢山の雑煮など等の手料理で過ごしていたがここ数年は京都の正月を味わっている。長期滞在の下見のつもりで出かけていたが、仕事の年数が明かす今年もやむなく暮れから正月にかけての短期滞在になってしまった。

神社仏閣そぞろ巡りで見ると正月飾りは種類も多く自然素材を上手に生かして粋でお洒落だが丸餅を焼かずに入れる白味噌仕立ての雑煮は無粋と思える。

学生の街でもあり昔ながらのカフェも多く、歩き疲れたらジャズを聴きながらの



京都カルチャータンのカフェ

コーヒーも若き日々を思い出させてくれて嬉しい。暮れなずむ頃、僅かに山頂からの微風を受けて鴨川を眺めているとなぜか悠久の想いに触れた感覚になれる不思議な街だ。

学生運動が盛んだったカルチャータンで過ごした夫は今年杖を片手に街に寄り添い向き合い歩く己が姿を想像だにしなかったであろう。

大過なく1年が過ぎれば大慶なり。七転び八起きで行こう。



鴨川の朝の風景

いつも「Chocolat 通信」を応援して下さりありがとうございます。シリーズ・特集記事のアイデア、ご感想など編集部までお寄せ頂いたら感激です。今年もよろしくお願いたします。([Chocolat 通信]編集部)

【おせち料理を作りながら…】

バス 景山 洋一

今年の正月は、親戚10数名をもてなすためのおせち料理を妻と二人で作るはめになりました。私は、料理は17～8年の実績がありますが、おせちを独力で作った経験はなく、買い物、洗いの、野菜の皮むき等々、妻の下男に徹して働きました。

ショコラに入団してからもう1年過ぎましたが、高校時代の合唱経験から50年以上のブランクのため、音感も、リズム感も、鈍くなってなかなか皆さんについていけず、他の人の10倍以上練習して、ごまかしながら何とか今までやってきたので、この正月休みにまともに歌えるように練習しようと思っていた予定が狂いました。次善の策として、料理を作りながら紅白歌合戦の代わりに音源CDを伴奏として、繰り返し歌詞を口ずさんで覚え、おせち料理を作り終えたのは新年に歴が変わった2時間後でした。

正月に落ち着いてから改めて歌ってみたら、全曲完璧に歌えて大感激した、と言う初夢を見ました。

【地元鎌倉の甘酒巡り】

テナー 外山 智士

新年を裏山の蔵田寺(そうでんじ)で迎え、最初に口にしたのが子八幡社(ねのはちまんしゃ)の甘酒。新年早々、毎年恒例の地元鎌倉の甘酒巡りのはじまりです。

通行止めでも地元民にとっては関係なし。原付で出発して裏道を抜けて巨福呂坂(こぶくろざか)まで。鶴岡八幡宮裏から小町通り、若宮大路とまわって八幡宮へ。

10箇所を味わい、八幡宮に戻った頃にはお腹いっぱいでした。

正月にかぎらず、鎌倉巡りなら私にお任せ(^o^)

【おせち料理と母の思い出】

ソプラノ 遠藤 極

明治生れの母は毎年12月30日、31日は普段と違い材料を仕込んで本格的におせち料理を作るのが恒例になっていた。姉と私はその手伝いで夜おそくまで休憩も取れないハードな二日間を今も忘れることがない。四人の弟たちは自分の部屋を片づけ、時々台所に現れてつまみ食い専門。兄弟が大きくなってからはおせち料理の人氣も薄らいで、余り物の処分はしたくないので作るのはやめよう!と云い出し、母も少し折れて品数を減らし、年とともにその数は減少していった。いま考えてみれば嫁にいく娘たちに教えていくという母としての役目だったのだと思ひされ有難く感じられるこの頃でもある。時代のうつり変わりは目まぐるしく社会のしくみも変貌してきた今日では、それぞれの家庭の生活態様もさまざま、三が日もスーパーはやっているし暖かい室内では造り置きしても長持ちしにくいいため、鍋ものを重視したり、休暇を海外で過ごしたり、普段出来ないレジャーに又、スポーツにと、休みを有効に使うのも賢い。一生に一度の人生なのだから。

【年間 休日は正月三ヶ日のみなので】

指揮者 神尾 昇

私はここ数年、丸ビルの第九を大晦日にやっているのが本当に休みは正月三ヶ日のみ、とかというのが続いています。三ヶ日に仕事が入ることは今のところないのでのんびりしています。

だから正月らしい、といえそうですが何が話せるネタがあるわけではないのがちょっと寂しいです。

以前は田舎に良く帰ってましたが親戚がみな大阪神戸で遠いので集まることも無いし、父は酪農でいつも通りの毎日を過ごすので、まあ本当にのんびりできます。

ということで私の正月は本当に「のんびり」のひと言につきると思います。しかも一日中アルコールが身体から抜けない感じで過ごしてます。

何も面白い話がなくて済みません・・・

編集後記 2012.1.19

♪ 皆様、ショコラにまた一つ嬉しいニュースです。美苗先生が11月にご結婚なさって、おめでたのことです。お腹の赤ちゃんにはピアノが紡ぎ出す音楽や、たくさんの人の歌声やバラエティに富んだ音が聞こえていることと思います。おそらくお母さんに負けず感性豊かな、度量の大きいお子さんになることでしょう!

さあ私達も真剣に頑張りましょう。(三葉)

♪ 「ショコラ」的わが事初めは、コピーしたテキストをお手洗いに貼る事。個人的に暗譜・暗記を要する趣味が多いので。その他に効果的な場所はお台所。人によって貼る場所は選んだ方がよろしいでしょう。(Kobo)

【タイのお正月】

テナー 佐々木 晋

私の年末年始はごく平均的な過ごし方をしております。これでは話題とならないので、15年以上前ですが駐在していたタイのお正月について紹介したいと思います。昨年タイは大洪水で大変な被害でしたが、年末にはなんとか終息したようです。タイでは1月1日は休日ですが、その前後は営業している店や会社も多くということはありません。年越しに花火が上がったり、ホテルでは大掛かりなディナーパーティーがあったりもしますがこれは西洋のまねです。

タイの伝統的なお正月(旧正月)は4月13日から4月15日までで、ソクラーンと呼びます。この時期は日本と同様に故郷に帰る人が多いため、交通機関や道路は大渋滞となり、バンコクのような大都市は閑散とします。タイは仏教国ですので、伝統的な過ごし方はソクラーン1日目に寺院に行き僧侶に食べ物を捧げます。午後に仏像を洗う儀式がありこの後に有名な「水かけ祭り」となります。かつては仏像や年長者のお清めであった水かけが、今ではただの水の掛け合いになっています。ソクラーンが近付くと街中で巨大な水鉄砲が売られていて、皆準備に余念がありません。水の掛け合いは無礼講で目上、他人、外国人まったく関係なく突然水を浴びせられるので油断できません。外出するときは濡れてもよくて乾きやすい服で外出するのが常識です。軽トラックの後ろにドラム缶を積んで水を他の車や通行人にかけまくっている若者たちもよくみかけます。ソクラーンの間に水を掛合うのは楽しみの為だけでなく、次の耕作時期に十分な雨が降るようにとの願いが込められています。今年は大洪水にならないよう願いが込められるのかもしれません。



タイの国花 ナンバンサイカチ